私の教育実践　　～生き生きと夢の実現に挑戦する生徒の育成～

松山市立小野中学校　校長　篠原　康展

1　はじめに

本校は、来年創立８０周年を迎える、生徒数４２７名、学級数１５学級（内特別支援学級３学級）の松山市で最も東に位置する学校です。穏やかで素直な生徒が多く、地域や家庭の教育力も高いと感じています。

本校の教育目標は、平成３０年度より「生き生きと夢の実現に挑戦する生徒の育成」となって現在に続いています。平成１９年度から平成２１年度までの３年間、教育特区の指定で「職業科」が開設されていた経緯があり、平成２４年度に「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」を受賞したことも、現在の教育目標につながっています。えひめジョブチャレンジＵ－15 事業「愛媛の魅力新発見プロジェクト」に積極的に参加するなどの学校としての取組以外に、「夢の実現」に向けて、校長として、教職員・生徒・保護者・地域に対して発信してきたこと、取り組んできたことを紹介させていただきます。

2　本校での取組

⑴　小野中が目指す「自立」の姿を、教職員・生徒・保護者・地域で共有する。

「自立」は「夢の実現」につながる、生徒に求めたい姿であり、前任校長の時からグランドデザインの中心に掲げている、いわば本校教育のキーワードである。

４月最初の職員会で、また始業式や入学式で、さらにＰＴＡ総会や地域の広報誌で、校長から次のように伝えて、小野中の１年間をスタートした。

> 「自立」とは、誰の力も借りないで生きていくことではない。予測困難と言われる時代を生き抜くために必要な「自立」とは、考える力、判断力、粘り強さなどを身に付けることはもちろん、それに加えて、人とつながる力が大切である。人に支えてもらっていることに感謝し、人とよりよくつながるために必要な「想像する力」や「伝わることば」を磨いてほしい。物事がうまくいかなくても、自らの選択に責任を持ち、よきつながりの中で、たくましく人生を切り開いていく、そんな「自立」した人間に成長してほしいと願っている。

⑵　始業式・終業式での生徒による決意発表「夢の実現に向けて」

本校の始業式・終業式は、各学年の代表生徒が自らの夢について語り、それを受けての校長式辞となる。夢の実現に向けて、自分が今、何をしなければならないのかを堂々と述べる生徒の姿には、他の生徒も大きな刺激を受けている。

⑶　夢を実現させた人との出逢い

校長式辞では、夢の実現につながる話、夢を叶えた人の話を毎回紹介してきた。

2024.７月：パリオリンピック・パラリンピックのアスリートの生き方

2024.９月：卓球の早田ひな「特攻資料館で“あたりまえじゃない”を感じたい」

2024.12 月:マラソンの高橋尚子「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ」

2025.１月：５９歳“奇跡の海苔漁師ピアニスト「ラ・カンパネラ」への挑戦

2025.３月：松下幸之助の社員採用面接での質問「あなたは運がいいと思いますか」
2025.４月：アンパンマンに学ぶ「自立」（人を大切にし、困難に立ち向かう強さ）
2025.７月：やなせたかしがたどり着いた生きる意味「思いは力～だれかのために」
2025.９月：漫画「宇宙兄弟」より「目の前の小さな夢のドアに手を伸ばし続けろ」

また、夢を実現させた“本物”から話を聞ける機会があれば、積極的にその機会を求め、直接、あるいは間接的に生徒へのメッセージをいただいて紹介している。
□中矢匡「地球の上に生きる」□村上哲彦「夢の実現に向けて」全日本剣道優勝
□岩隈久志「ＷＢＣ・メジャーへの挑戦」□松本紀生「つながるいのち」（予定）

⑷　「夢を語ろう」～キャリア・パスポートの活用

今年の１学期の終業式では、全校生徒にロイロノートでアンケートを送り、「この夏の挑戦」と「夢」について提出してもらった。その際に私から発信した言葉は、「夢はいくつあってもいいし、大きいも小さいもない。必ずしも将来の仕事に結び付けなくても大丈夫。私、５９歳の挑戦と夢についても書いているので読んでみてほしい。夢は人に語ることで実現に近づくのだと思う。」であった。

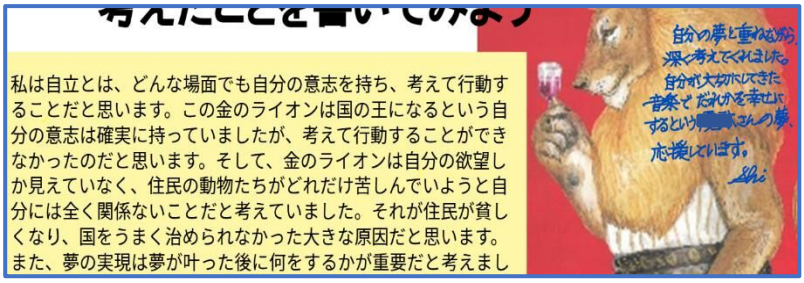
この後教室に戻った生徒は、各自、キャリア・パスポートを振り返りながら、校長へ夏休みのチャレンジや夢を送ってくれた。その内容は、学級担任とも共有し、生徒への声掛けや、教育相談（進路相談）の参考にしてもらっている。

⑸　ＨＰや玄関掲示板を活用した「夢の実現」心構えの醸成

本校の玄関には、１か月に一度、校長の文字で「夢の実現」につながる言葉を示している。右の写真は７月の掲示である。本校のＨＰのメニューに、「夢の実現」という校長ブログを開設し、掲示（文字）に込めた思いを随時掲載している。

⑹　卒業を前にした３年生への校長道徳

「自立」「夢の実現」を掲げて教育活動を行ってきた総括として、卒業前の３年生に、学年道徳の授業を行った。昨年度は、絵本「二番目の悪者」を題材として使用した。中心発問は「国はなぜ滅びてしまったのだろう」であったが、最後に「金のライオンは本当に夢をかなえたのだろうか」と問うことで、「夢は『だれかのため』にという思いを乗せることで幸せな未来につながる」ことを考えてくれたと感じている。



３　おわりに

私の教育実践の原動力となっている言葉が「思いは力」です。本気の思いは人の心を動かし、やがて夢を招きます。自分のためだけの夢ではなく、だれかを想って挑む夢には、必ず応援してくれる人が現れます。そして、その人たちの思いを受けて、夢はさらに膨らんでいくものなのだと信じます。校長就任以来、そんなメッセージを生徒に送るときにいつも意識していたのは、生徒の前にいる先生方だった気がします。現在、本校の多くの先生方が、黒板に生徒へのメッセージを書いて、毎朝生徒を迎えています。「思いは力～だれかのために～」これからの若い先生方の「熱き思い」に期待します。